



「Because I am a girl」

石川県立金沢錦丘中学校 3年 野本 千絢

「13歳で結婚。14歳で出産。恋は、まだ知らない」

あなたは、このキャッチコピーを知っているだろうか。国際NGOプランジャパンの、途上国の女の子たちの問題を訴える「Because I am a girl」キャンペーンのキャッチコピーだ。私はこのキャッチコピーを知り大きな衝撃を受けた。

アフリカや東アジアなどの途上国では、未だに「女の子だから」生きていくことすら困難な状況が続いているのだそうだ。乳幼児の生存率も女子の方が低く、初等教育を受けるべき年代の女の子たちが、同年代の男の子たちが学校に行ったり遊んだりしている間に家事労働に明け暮れる。女の子の識字率は男の子よりも10パーセント以上も低い。そしてお金のために10歳くらいで無理矢理よく知りもしない男性との結婚を強いられる。早すぎる出産で命を落とすことも少なくない。「Because I am a girl」女の子だから。なんて悲しい言葉だろう。

今まで私は世界には貧困にあえぐ国があり、学校に通うことができない子どもたちがいることは知っていた。しかし、女の子だけが差別されていることを実感したことはなかった。自由に学ぶこと、学校に通うこと、なりたい職業につき、恋をして幸せな結婚をすること……私たちが当たり前のようにしていること夢見ていることを、絶望的な状況のなかで心から望んでいる女の子たちが世界にはまだたくさんいるのだ。

ある日、学校で難しい問題を解いていた時、一人のクラスメートがこのような質問をした。

「先生、この授業は将来役に立つのですか。」と。

先生は「大学に行くため」、「専門の道に進んだ時に必要になる」と答えた。受験を控えた私たちは、つい日々の勉強を役に立つかどうかで考えてしまいがちだ。いつの間にか、学びたいという気持ちより、勉強をすることが目的になってしまっていないだろうか。勉強することが当たり前であることに慣れてしまい、それがどれほど有り難いことなのかを忘れてしまっていないだろうか。

私たちが学ぶ理由、それは単に教科を学習するだけではなく、世界を知り視野を広げることにあると思う。多角的に物事をとらえ、的確に判断できる思考力、そしてその思考を支える豊かな知識と感性を身につけたい。

それが世界を変えるささやかな第一歩になると私は信じている。